

議題 第3次男女共同参画推進プラン令和6年度実施状況について

宮嶋主事

(議題に基づき内容を説明)

長谷川委員

98ページのデートDV防止セミナーについて。今回は実施せずとあったが、デートDV防止セミナーの需要について、市の方ではどのように考えているか。

事務局

当セミナーは男女交際を前提とした内容となっており、身近に感じづらい生徒も一定数いることから、学校側としても関心を持つに至らないと考えている。

また、当該年度当初に学校へ周知をしたため、学校側がスケジュールに組み込みづらかったものと捉えている。学校は次年度のスケジュールを前年度末に立てることから、既に来年度のセミナーに係る周知を行ったところである。

長谷川委員

大崎学園を除いて、需要がないとも捉えられるので、当セミナーは廃止した方が良いのではないかと。私もかつて39年間高等学校の教諭をしていたが、周囲の教諭と話しても当該講座を利用したいと声を聞いたことがない。中学生や高校生向けに対しては、アンコンシャス・バイアスや性別に基づく固定的役割意識が世の中に根強く残っている実態を知ってもらい、学校生活における事例と交えて学習する方が良いと考えている。

事務局

今ほどの意見を踏まえ、学校のほうも来年のカリキュラムはあると思うが、どのような内容だと学校にもメリットがあるのか、次年度聞きとりを行う。

杉原会長

大崎学園との進行が難航したとあるが、何が難航したのか

事務局

主に開催時期の調整であった。

杉原会長

42ページに校長・教頭を対象とした事業があるが、偉い人だけで、教員は対象にしなかったのか

事務局

教員に伝えることで、それを教育という形で生徒指導に活かしてもらえというメリットを見込んで実施した。

長谷川委員

参加率はどうか。

事務局	参加率は不明だが、参加者数は10名以上だった。
長谷川委員	参加について、基本全員参加を促したほうが良い。 興味のない教員はいつまでも参加しなくなる。
事務局	アフターフォローとして、研修の様子を撮影してDVDを作成し、借用できるようにしている。参加しなかったからといって、研修の機会を逃したことはない。
関根委員	人権問題の啓発は小さいころからの積み重ね。ぜひそういったところにもアプローチしてほしい
事務局	性別にとらわれない職業ということをテーマに議論する機会もあった。引き続き小学生の児童にも伝えていきたい。(38ページ)
西山委員	28ページを見ると農業分野での女性の参加率の改善にいたらなかったことが分かる。非常に遅れているといか、ずっと同じ評価だと感じる。
高井委員	農業は男性、という意識はかなり根付いている。収入も安定的ではないし、お嫁さんのほうは会社勤めのパターンが多い。安定した収入のためにはある程度仕方のないことだと思う。
杉原会長	改善が見られなくても、啓発の活動だけは地道にやって行くべき。
西山委員	デートDVの冊子を作り、小中学校に配ってはいいる。しかし、なかなか講座をしてほしいという要望はない。(同和教育のほうは要望がある) 都会より地方のほうが発信しにくいのではないか。
和田委員	農業面での取組については県の農業関連機関と協力できると良いと思う。また、興味深いと思ったことは、生理痛を疑似体験できる装置を、県内の企業が体験会の実施を企画したことがあった。県内でそういった取組がなされるのは良いことだと思った。
事務局	農業については担当課に伝える。生理問題については現在生理用品の配布を行っている。疑似体験のほうが実現できるかは分からないが、検討材料として貴重な意見をいただいた。

長谷川委員	<p>政府が改正案をつくるという記事もあった。働きやすい職場改善として、市としてこの改正をどう見るかジェンダーの平等の観点からも重要なことだと思う。</p>
事務局	<p>働きやすい職場改善を企業・事業者をお願いするのは現段階だと難しいと思う。</p> <p>市役所内部では生理休暇が用意されている。さらに何か改善するかについては今後検討。</p>
和田委員	<p>企業・事業者にそれをお願いするのは現段階だと難しいと思う。</p> <p>市役所内部では生理休暇が用意されている。さらに何か改善するかについては今後検討。</p>
永井委員	<p>水科先生の講座について直前のキャンセルがあったために評価を×にするのは厳しすぎるのでは。</p> <p>また、10ページの育児講座については、自分は育児に係わっているという自負があるので、参加の必要がないと感じた。そういった層が一定数いるのも認識してほしい。</p> <p>さらに、16ページ目の事業（デジタル人材育成セミナー）には、参加者を伸ばすために保育ルームが必須だと思う。新潟日報の記者としての観点から言えば、三条にゆかりがある人を呼ぶのも良いと思う。</p> <p>LGBTQの知り合いがいるが、お手洗いにいく際に困るとのこと。学校でも同じ状況はあるのではないか。こういった場面で対応できるように教員対象研修は必要だと思う。</p>
事務局	<p>デジタル人材育成公演会における保育ルームの設置については次年度への改善事項にする。LGBTQの人は多目的トイレに入ることが多い様子。法律的には戸籍上の性別に則ってトイレに入ることになる。啓発の面は引き続き検討していく。</p>
宮島委員	<p>管理職には考えが古い人もいるし、若い人にはできるだけ早めの教育も行う必要がある。ちなみに、学校や地域によって理解の仕方が違うことはあるのか。</p>
事務局	<p>三条・栄地区は比較的性別による差別は少ない。下田地区には、「料理は女性のすること」というような固定概念が根付いている傾向にある。両親や周りの環境を見て学んでいると考えられる。</p> <p>教職員の対応、一般の対応についてはまだまだ不足している。教職員向けの考える機会を今後は検討したい。</p>

長谷川委員	(プランの評価基準について) 評価はある程度細かいほうが良い。△があっても良いと思う。
杉原会長	前年度との比較は見たいと思う
事務局	評価基準については次年度以降検討していきたい。 ほかに意見が無いようなので、上がった意見を踏まえて必要があれば修正する前提で、原案のとおり決定するがよいか。 意義なし。